

県小体研だより

鳥取県小学校体育研究会 令和5年5月発行

＜会場校・就将小訪問＞

4月26日に取材のため会場校を訪問しました。その日は、第2回校内研「研修計画・専門部会」と重なっていました。また、2日後に校内職員向けの後藤先生の授業を間近に控えた時でもありました。ご多用の中、取材に快く対応してもらいました。

就将小・三木校長先生の話

研究を通して、子どもの心に「火をつける」大切さが分かってきました。「できる」「わかる」に繋げるため、子どもの意欲をかきたてることが教師の仕事だと思います。「火をつける」ために、「どんな種をまいていけばよいか」を全県で一緒になって研究していくことを嬉しく感じています。

校長室で熱く語られました。紙面上、お二人の先生のお話を、コンパクトに短くまとめざるを得ないことを心苦しく思います。

●就将小の当面のスケジュール

- 4/11 校内研①
 - ・今年度の研究
 - ・専門部会
- 4/26 校内研②
 - ・提案授業（後藤先生）
- 5/15 校内研③ 小体研との打ち合わせ
 - ・県研究部長、指導主事の話
 - ・授業者と指導助言者との打合



6/14 校内研④

・研修

6/21 校内研⑤

・全体研 日野先生来校

8/17 指導案・原稿締め切り

～当日の授業、分科会発表の

イメージを共有する～

裏面には、研究会当日の就将小授業、分科会発表で中核的になるであろう項目やキーワードが表にしています。

このねらいは、11月2日の授業や分科会提案概要について、少しでも事前に共有しておきたいところにあります。相互に意識し合うことで、県の進める方向性の再確認と、自分たちの立ち位置を振り返ることができるのです。

教務主任・後藤先生の話

学習の始めの活動が「運動の楽しさや喜びを味わえる」ために「必要な技能を身に付けられる運動」かということも吟味しながら取り組んでいます。また、「ここまできたらレベル〇」のように、子どもたちにも分かる目安を伝え、技能を伸ばす原動力となる意欲づくりを大切にしています。

この大会を通して、若い先生方でも「真似してみたい」と思えるような発表にしたいと思います。

（両面の文責 県小体研・顧問 長谷川）

領 域	会場校 担当郡市	A 3つの目玉（・「する、みる、支える、知る」の多様な関わり方 ・授業に浸っている ・準教科書の活用） B 4つの共通実践（・振り返り板 ・体育アンケート ・準教科書の活用 ・ICT） C 授業や分科会提案で中心となりそうな方向性や内容など
器 械 運 動	会場校 東部	A グループで、積極的に補助をし合いながら、できる技を増やしていく。 B 「振り返り板」で、困っている友達に進んでアドバイスしたり、上達したいことを伝え合ったりして技能を高めていく。 C クロームブックで撮影した自己の技の静止画を「わたしたちの体育」の挿絵と比べて、よりよい動きに近づける。 A 特に「支える」（補助者の動き）を中心に。アナログンを意識したサーキット運動 B ICT（支えるー補助者の動き） 振り返り板（効果的な活用に課題） 準教科書の挿絵の掲示物、チェック、振り返り C 簡単な技、多様な動きを取り入れて、運動の楽しさや美しさにつなげる。
走 ・ 跳 の 運 動	会場校 中部	A 友達の動きを見たり、リズムがとれるように声をかけ合ったりする機会を多くし、「見る」「支える」の関わりを重視している。 B 「体育アンケート」から「支える」「支えられる」楽しさや喜びの経験が少ないことが分かり、教え合う機会を多く設定する。 C ハードル間を一定にし、ハードル間の距離に自分の動きを合わせ、自己のリズムで走る。 A 技能を高めることにつながるアナログンやサーキット運動 B 準教科書の技の例示を開いてみたり、掲示物として活用したりした。 C 4つのうち、どの関わりが子どもの伸びにつながるかを示したい。発表のポイントをさらに焦点化したい。
表 現 運 動	会場校 米子	A 「ダンスウォーミングアップ」で友達と一緒に体を動かしながら、心と体をほぐしていくことで意欲を高める B 「振り返り板」を利用し、その時間のよかった動きに気付かせたり、次時への「もっと～したい」を引き出したりする。 C 「4つのくずし習得計画」をもとに、表現活動の基礎を高め、子ども達のイメージに合ったもっとよい動きにつなげていく。 A 「自己開示」「自分の殻を破る」ための友達からの声かけ、言葉かけ。「支える」が中心となる。 B 「支える」の関わりの中で、自分たちの姿がどう変わったかを見て考える。ICT の活用も予定している。 C 授業の前半と後半で、どのような変容があったか。声かけ・言葉かけ、話し合いや実際に動いてみて。
保 健	会場校 東部	A 自分の生活を振り返り、自己の健康課題に気付かせながら、学習課題を自分事として捉えられるようにする単元構成。 A 養護教諭からの専門的な助言を聞き、自分がより健康になれるポイントに気付けるようにする。 C 「元気もりもりパワーアップシート」や「健康6ヶ条 改善シート」を毎授業の終末にまとめ、今後の生活にいかしていく。 A 単元構成（行動化や環境づくりにつなげる工夫） A 実験や体験的活動による健康課題への気付き → 実験を通して今後の生活に繋げていく。 C 教科書「いきいき宣言」をまとめる中で、実験による健康課題への気付きや今後の生活に繋げる工夫がポイントとなる。